

インタビュー

フラメンコ・ダンサー、田村陽子

“フラメンコに関して、私はアーティストであって、日本人ではないです”

マリア・イサベル R パロップ、記者、@palopflamenco

www.PALOpFLAMENCO.COM

田村陽子は日本で生まれ、“太陽の子”として 20 年以上前からフラメンコとその千年文化への愛情で日本とスペインのフラメンコを照らしています。カンテ・デ・ラス・ミナス第 1 回日本予選で舞踊部門、エル・デスプランテ、を勝ち取り、ムルシア州ラ・ウニオンで開催される本選への切符を手に入りました。このコンクール初の国際版でマルワ財団の代表として本選まで進み、2 年前の第 55 回カンテ・デ・ラス・ミナス国際フェスティバルで準決勝まで残りました。その挑戦から始まり現在に至るまで舞踊手兼芸術監督であるヘスス・オルテガと共にコンパスを刻んでいます。

オルテガと誰もが知る舞踊手、クリスティナ・オヨスと共に。クリスティナ・オヨス、“マエストラ”とは日本でコンクールの審査員を務めた時に知り合ったと言います。“感情は外に出すべきで、その感情を人々と共有出来なくてはならないと説明したのよ。その感情と腹で踊らなくちゃ、そして常にその夜が最高の夜になると思いつつ。陽子は素晴らしい表現力を持ち、努力家だし、いつも歌とギターを気にかけている。フラメンコにすごく溶け込んでいて、観客はやっぱりそれを感じるのよ”とクリスティナ・オヨスは話します。

田村陽子：“幼い頃から自分は踊りに向いているとわかっていました。様々な踊りを習いました、クラシック・バレエ、バトントワリング、ジャズ・ダンス、そして 17 歳の時にフラメンコを中井不二子やアントニオ・アロンソ、水村繁子の下で習い、2002 年に小松原庸子スペイン舞踊研究所に入所しました”

小松原は日本における初のフラメンコ大使として知られています。今日、フラメンコのアカデミーやお教室の数がスペインを超える日本と言う国、そこにスペインのタブラオやフェスティバルで観客を魅了し続ける田村陽子がいます。その修練やバイタリティー、テクニックやアルテ(芸術)はアジア人の容姿をもぼかします。

陽子は“太陽の子”を意味するけど、スペインから遠く離れた場所で心も体もフラメンコに捧げようと決めるにあたり、何があなたを照らし導いたのでしょうか？

田村陽子：日本でフラメンコの映画を見て魅了されました。母に自分はこれがやりたいんだ、と何度もねだり、母はフラメンコを教えていた友人のお教室に私を連れて行き習い始めたんです。ここから全てが始まったんです。

以降、陽子はフラメンコ及びクラシコ・エスパニョールをアントニオ・カナレスやクリージョ・デ・ボルムホス、マリベル・ガジャルドなど著名なマエストロたちに学び、日本国内外のツアーに参加するようになりました。セビージャのビエナル・デ・フラメンコではかの有名なマエストランサ劇場の舞台に立ち、サラゴサ万博ではジャパンデーの公演に出演を果たします。

独立して何が一番大変ですか？

田村陽子：たぶん、新しい事へ挑戦する際に感じる恐怖を乗り越える事だと思います。舞台上、フラメンコを通しては日本とスペインはほとんど変わらない、と言う事を理解して貰えるか常に不安でした。よく“日本人がフラメンコを踊れるの”と聞かれますが、フラメンコに関して、私はアーティストであって、日本人ではないです。ユネスコはフラメンコを世界無形文化遺産に指定していますからこの芸術はみんなのものだと思います。フラメンコを尊敬し、感じれば正にそれ、全世界のもの、我々一人一人のものです。

田村陽子は私たちの国に惚れ込み、今度はスペインが陽子の表現するフラメンコ特有の強さと繊細さが共存する感情の激流に少しずつ応えています。スペイン語がとても上手で学ぶ意欲、表現したい気持ちに満ち溢れ、アジアやメキシコで公演し、マリア・パヘス舞踊団の作品“セビージャ”の日本公演にも出演、作品“カルメン”では主役を務めるまでになります。

田村陽子の限界はどこですか？

田村陽子：踊り手としての限界は設けないようにしています。共有したいものを表現、それに立ち向かうだけです。誰もが心掛けるように、私も日々昇進し、周りの人々から学び、私の周りが心地良く感じられるよう頑張っています。常に良くなろうと心掛けています、みんなと同じです。

その側には舞踊手であり、スペイン及び日本で舞踊教師、芸術監督を務めるヘスス・オルテガが居ます。陽子が国境を超える度、陽子の肩となりコンパスとなります。その国境は二人にとっては互いを離す機内の数時間にすぎない。

ヘスス、田村陽の踊りをどう表現しますか？

ヘスス・オルテガ：まずは陽子が述べた事、日本とフラメンコについて強調させて下さい。私も我々のフラメンコが全世界のものとなり世界各地に伝わる事をとても光栄に思います。スペインから沢山の事、多くの気持ちを伝える事が出来て誇りに思います...遠く離れていながらもスペインを見つめ、観察し、恵みの水のごとく多くを吸収する国、日本でこれ程多くの事を感じているのです。それが世界的である事です。陽子の踊りはフラメンコがグローバル化された賜物だと私も思います。そして、彼女の踊りについてですか、何も言う事ないでしょう！！陽子は言い表すとしたら、非常に努力家であり、とてもいい踊りを踊っています。他の方との違いは、踊りを感じ、表現する彼女独特の手法だと思います。彼女のフラメンコはテクニックも駆使していますが、気持ちが入っているからこそ効き目があります、陽子はそれを伝える力に非常に長けています。